

上部消化管内視鏡検査同意書

(同意はいつでも撤回することができます)

_____年 _____月 _____日 _____時に以下のとおり説明しました。

医療機関名 _____

医 師 _____

同 席 者 _____

〈上部消化管内視鏡検査について〉

下記患者に対して、現在の病状、上部消化管内視鏡検査に対する説明を行いました。

交付した説明書類：上部消化管内視鏡（胃カメラ）について

[書式番号：GIF-8（メディカルサポートセンター専用）]

1 現在の病状、上部消化管内視鏡検査についての説明を受けました。そして、その内容について <input type="checkbox"/> わかりました。その上で納得して検査に同意します。 <input type="checkbox"/> わかりましたが、検査には同意しません。			
2 要望			
日	付	年	月 日
患者氏名（自署）			
代諾者（自署）		続柄	
住所			
同席者（自署）		続柄	
住所			

【上部消化管内視鏡検査を依頼される先生方へ】

検査を安全に行うために、以下の項目で該当するものについて情報提供をお願い致します。

① 既往症について

- 緑内障 前立腺肥大症 COPD(慢性閉塞性肺疾患)
 心疾患 抗血栓薬もしくは抗凝固薬を服用している

② 生検について

- 可 不可

③ 感染症について

- ・ワ氏 (-) (+) 未実施
・HB抗原 (-) (+) 未実施
・HCV (-) (+) 未実施
・HIV (-) (+) 未実施
・MRSA (-) (+) 部位 (_____) 未実施

説明書

〈上部消化管内視鏡（胃カメラ）について〉

1 上部消化管内視検査の方法

咽頭を麻酔し、内視鏡を口腔から挿入し、食道、胃、十二指腸の粘膜を詳しく観察します。この検査では食道癌、胃癌、胃炎、胃ポリープ、十二指腸潰瘍などの病変を細かく観察することができます。また、検査中に病変を生検（組織の一部を採取）し、病理診断（顕微鏡で診断）することがあり、食道癌、胃癌などの悪性腫瘍の診断が可能です。

その他、色素内視鏡といい、内視鏡の先から色素を散布し病変を見やすくして観察することもあります。検査時間はおよそ5～15分程度です。

2 合併症

主な合併症として出血、穿孔等があります。

生検の際に、少量の出血を伴いますが、ほとんどの場合は自然に止血します。しかし、病変部が易出血性（わずかな刺激により出血する）であった場合に自然止血が得られず、内視鏡的止血処置、稀に開腹手術が必要となり入院することがあります。また、脳梗塞、心筋梗塞・狭心症などの心疾患等で抗血小板薬、抗凝固薬（血液をサラサラにするお薬）を内服されている場合は止血機能が低下し、出血が持続することがあります。出血が予測される場合、生検できない場合がありますので、主治医にご相談ください。

穿孔とは内視鏡挿入時に咽頭の壁を傷つけたり、生検の際に消化管の壁に穴があいてしまうことで、内視鏡的縫縮術や緊急手術（開腹手術など）等が必要になることもあり、入院加療を要します。また、穿孔には至らない場合でも、送気による胃壁伸展や内視鏡の操作によって、また患者さんのおくび（げっぷ）の影響で、粘膜に裂傷を来すことがあります。概ねは自然に治癒しますが、裂傷が大きな場合や出血を来した場合は、内視鏡での縫縮や絶食入院加療を要することがあります。

内視鏡検査に使用する薬剤によって生じる合併症として、以下のようなものがあります。

咽頭麻酔をおこなう際にキシロカインという局所麻酔薬を使用しますが、この薬剤にアレルギーのある方は、気分が悪くなったりすることがあり、ときに血圧が下がり、ショック状態となることがあります。過去に局所麻酔薬にアレルギーのある方は必ずお知らせください。

食道の病変をあきらかにするためヨードという色素を散布することがありますが、ヨードやうがい薬にアレルギーがある方は事前にお知らせください。

内視鏡検査の際に胃などの動きを止めて観察しやすくするために、筋肉注射を検査前におこないますが、前立腺の病気、心臓病、緑内障、糖尿病、褐色細胞腫の方の場合、疾患を増悪させる事がありますので、これらの疾患の方は事前にお知らせください。

また検査の際にはマウスピースを装着していただきます。ごく稀に前歯に動揺歯がある場合、歯牙損傷や脱落、誤飲・誤嚥などをきたし、場合によっては抜歯や摘出術などの処置が必要となる可能性があります。動揺歯がある方は事前にお知らせください。

以上のようなショック、穿孔等の合併症は極めて稀であり、0.07%以下の発症率（うち、不幸にも死亡される方は、0.0007%）です。手術・検査の前後、数時間～数日間に渡り安静が必要であり、心筋梗塞、肺塞栓、脳梗塞が起こりやすくなります。

3 留意点

心臓・血管の病気や脳梗塞などで抗凝固薬や抗血小板薬を服用している方は、検査の前に服用を中止していただく場合があります。中止する日数は各薬剤により異なりますので、主治医にすぐご相談ください。

4 その他

疑問点は主治医にご相談ください。